

平成30年10月26日（金）1校時 上体育館 指導者 近藤 俊介

児童支援者 十河 裕美

1 単元名 「落とそうで！落とさまで！どうするで？」（ボール運動：ネット型）

2 単元の目標

ゲームに積極的に取り組み、バレーボールのおもしろさを深く味わい続けながら、連携して攻防するための知識を習得し技能を高めて、チームに応じた作戦を工夫して課題を解決することができる。

3 単元の構想

【児童の実態】

本学級は、男子16名、女子15名、計31名で課題に対して前向きに取り組む児童が多い。男女の仲が良く、協力して課題解決に向かうことができる。休み時間に、ボールを使って遊ぶ児童は限られている。4年生の、ゲーム「バレーボール」では、セッターの役割を共有して3回で返すよさを学習している。また、ブロックのよさに気付き始めていた。6年生になって初めてのボール運動である本単元では、昨年度のボール運動「サッカー」でのチームで課題を解決する経験を生かして、特にチーム内の友達と連携しながら攻防し、課題に迫っていききたい。

【運動のおもしろさの捉え方】

「チームで、ボールを落とさないで組み立てて相手コートに落とすことができるかどうか」をめぐる攻防がおもしろさであると捉える。本単元では、課題に向かって、一人ひとりの役割分担やポジショニングを工夫して、協力しながら解決していくおもしろさを味わわせたい。



「課題に迫るために、めあてをもち、夢中になって学び続ける子どもの育成」を目指して

挑戦課題：チームで、ボールを落とさないで組み立てて相手コートに落とすことができるかどうか

【問いと学びの姿】

問い どうすれば落とさないで、相手コートに落とすことができるかな？

→ セッター、ブロッカー、レシーバー、アタッカーの役割を考え、チーム内でポジショニングや連携の仕方を工夫している姿。

問い どう組み立てれば、相手コートに落とすことができるかな？

→ 相手に合わせて、攻撃の組み立て方を工夫している姿。

【単元構成の工夫】

はじめに「バレーボールは何をどのように楽しむスポーツなのかな？」と投げかけることで、挑戦課題を共有するとともに、チームでスポーツを楽しむ態度も育んでいきたいと考えている。仲間のプレイに対して、チーム内でお互いに励ましの声かけやアドバイスをしたり、仲間のカバーをし合ったりして、チーム作りを工夫する姿が見られるようにしたい。単元の前半では「どうすればボールを落とさないで、相手コートに落とすことができるか」という問いを追究していく。ボールを落とさずに相手コートに落とすためには、まずチーム全員の役割分担が大切である。そして、役割を果たすためのポジショニングや連携の仕方を追究していくようになる。連携が高まることで、ブロックやキャッチが上手くいくようになり、コートに落とすのが難しくなってくることを予想される。そこで後半は「組み立ててボールを落とす」ためにはどのようなことができるか考えるようにする。攻撃のスピードという新たな追究のための手がかりも使いながら、役割分担やポジショニングを状況に合わせて変化させたり、相手に合わせて工夫したりするなどの姿が見られるようにしたい。

4 運動のおもしろさを広げるための支援の工夫

- 「自己」とのかかわりから
 - ・ 児童が試行錯誤するときの追究のための手がかりとして、「声かけ・役割分担・位置・タイミング・スピード」を共有し、共通の言葉を使って話し合えるようにすることで、チームで課題解決することができるようにする。
 - ・ チームのめあてをもとに個人のめあてを設定し、振り返る場を設けることで、ポジショニングや連携の仕方などを見直し、多様に役割を果たすことができるようにする。
 - ・ 単の後半には、ルールや行い方の追加・変更をする。総当たり戦にすることで、いろいろなチームと対戦し、相手に応じた作戦を立てることができるようにする。また、10点マッチにすることで、より相手チームに応じた作戦の工夫ができるようにする。さらには、状況に応じて2回で相手コートに返すことも作戦として取り入れることができるようにすることで、より多様に組み立てを工夫することができるようにする。
- 「仲間」とのかかわりから
 - ・ AコートからCコートまで3つのコートに分け、勝敗によって入れ替えることで、勝ちたいという意識を保ちながら、プレイすることができるようにする。
 - ・ 5点マッチのゲームを設定し、繰り返しゲームを行うことで、ゲームの行い方に早く慣れることができるようにする。また、少ない点で勝敗が決まることで、1本1本を大切にプレイすることができるようにする。
 - ・ 「2回までキャッチしてもよい」というルールにし、組み立てるための技能を易しくすることで、連携するよさを全員が味わうことができるようにする。
- 「もの」とのかかわりから
 - ・ ネットの高さを全員がアタックを打ったりブロックをしたりできる高さにして、ネット際の攻防のおもしろさを味わうことができるようにする。
 - ・ ボールは柔らかい素材で操作性のよいボール（図1）を使用することで、ボールに対して恐怖心がある児童でも安心してプレイすることができるようにする。

（図1）



5 評価規準

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	バレーボールの行い方を理解し、チームの連携による攻防をすることができる。	課題に向かってチームで作戦を工夫したり、考えたことを伝え合ったりしている。	運動に積極的に取り組み、仲間の考えや取組を認めることができる。
評価規準	ア チームの連携による攻撃や守備の行い方を理解する。 イ ボールを「落とさないで落とす」ために、ブロックをしたり、作戦にもとづいたポジショニングをしたりして役割を果たすことができる。 ウ 役割分担や位置などを手がかりにしながら、チームで「組み立てて落とす」際の役割を果たすことができる。	カ ブロックやレシーブの役割分担、ポジショニングを考えたり、トスをあげるスピードを変えたりするなど、作戦の工夫をしている。 キ 「落とさずに落とす」や「組み立てて落とす」ために考えたことを伝え合っている。	サ ゲームや練習に積極的に取り組もうとしている。 シ ゲームや練習の中で互いの動きを見合ったり、話し合ったりする際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。